

文化芸術に関するアンケート 調査結果

山梨県県民生活部生涯学習文化課

アンケートの概要

1 調査目的

県民の文化芸術活動の実態及び課題やニーズを把握し、「山梨県文化芸術基本条例(仮称)」の制定に向けた基礎資料として活用する。

2 実施概要

(1) 実施期間

平成30年5月17(木)～平成30年5月31日(木)

(2) 調査対象

山梨県県政モニター 400人

(3) 回収結果

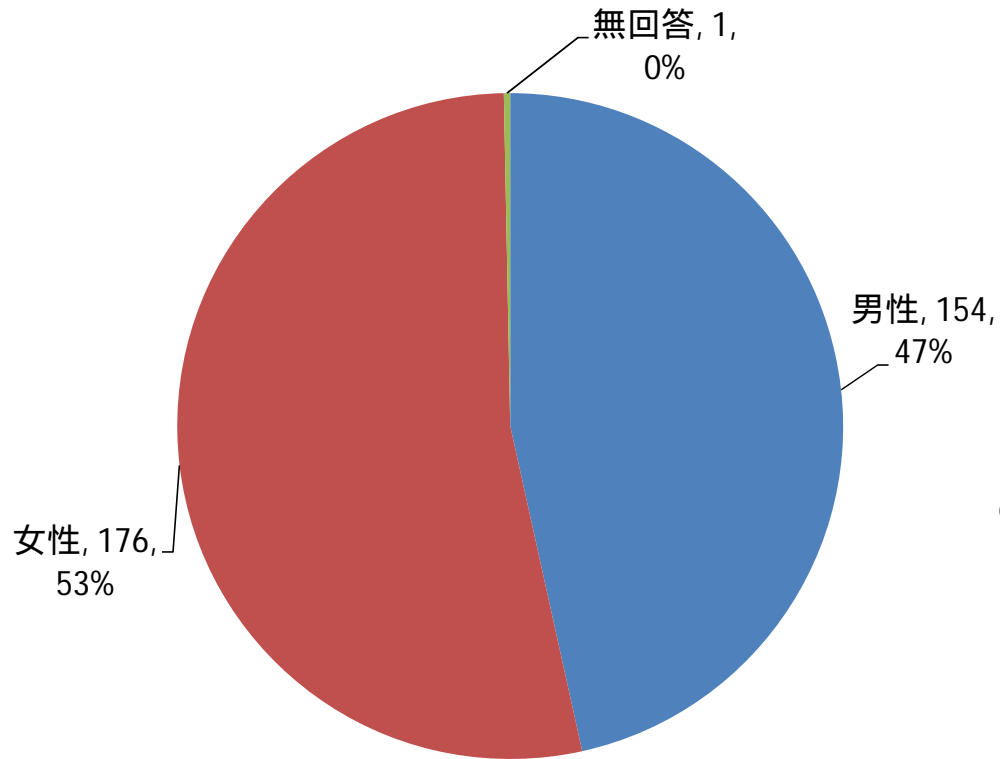
アンケート用紙送付者 400人

回答者 331人

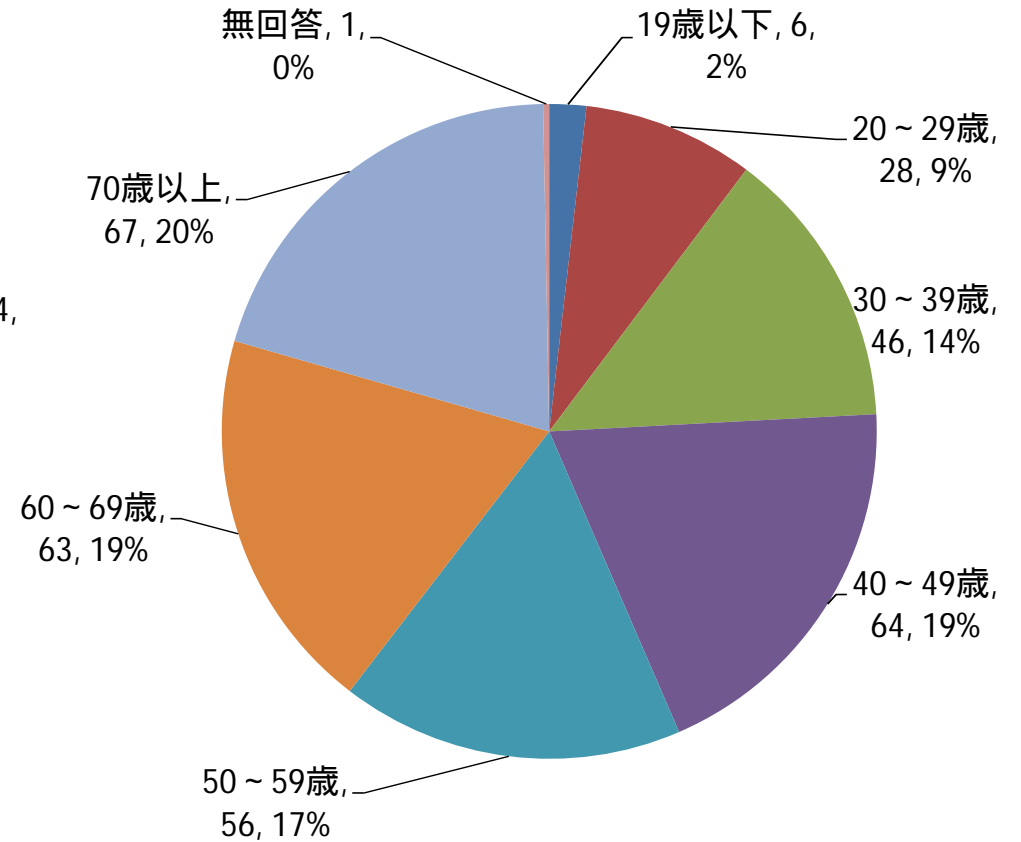
回収率 82.8%

アンケート結果(属性)

性別

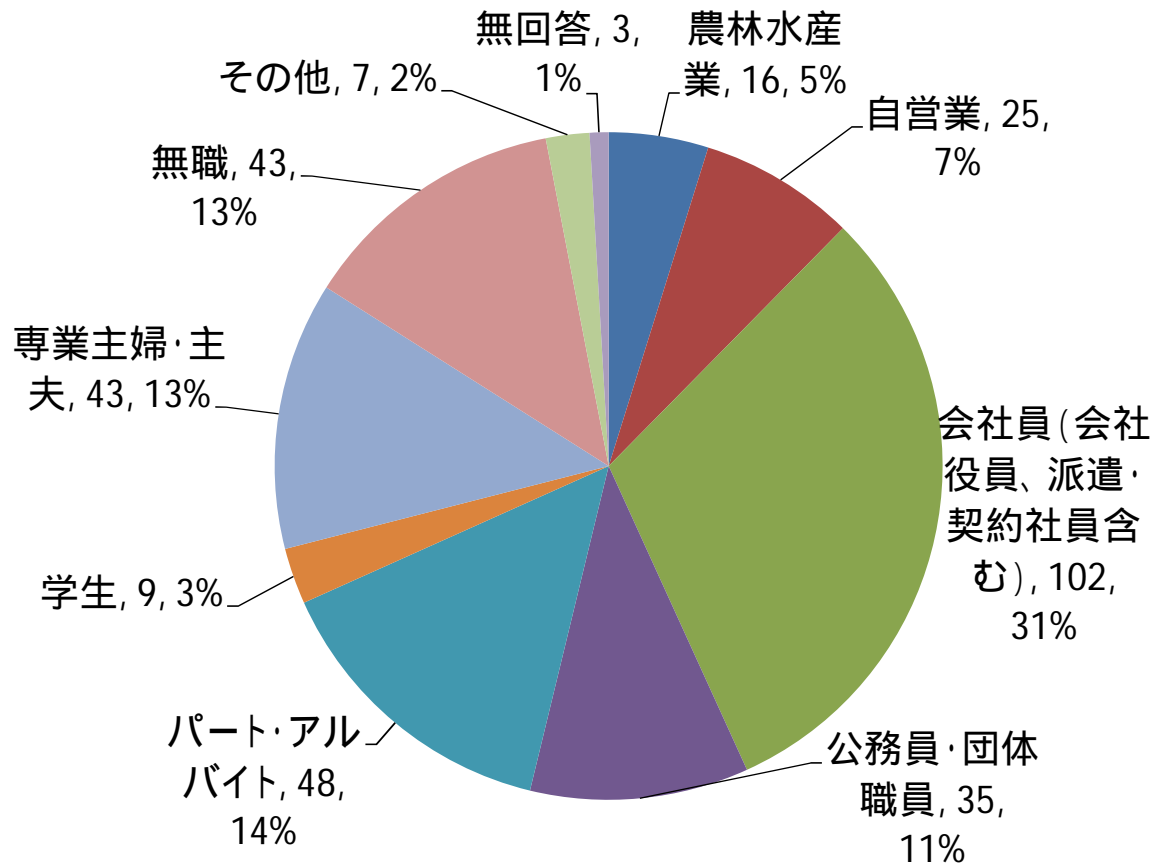
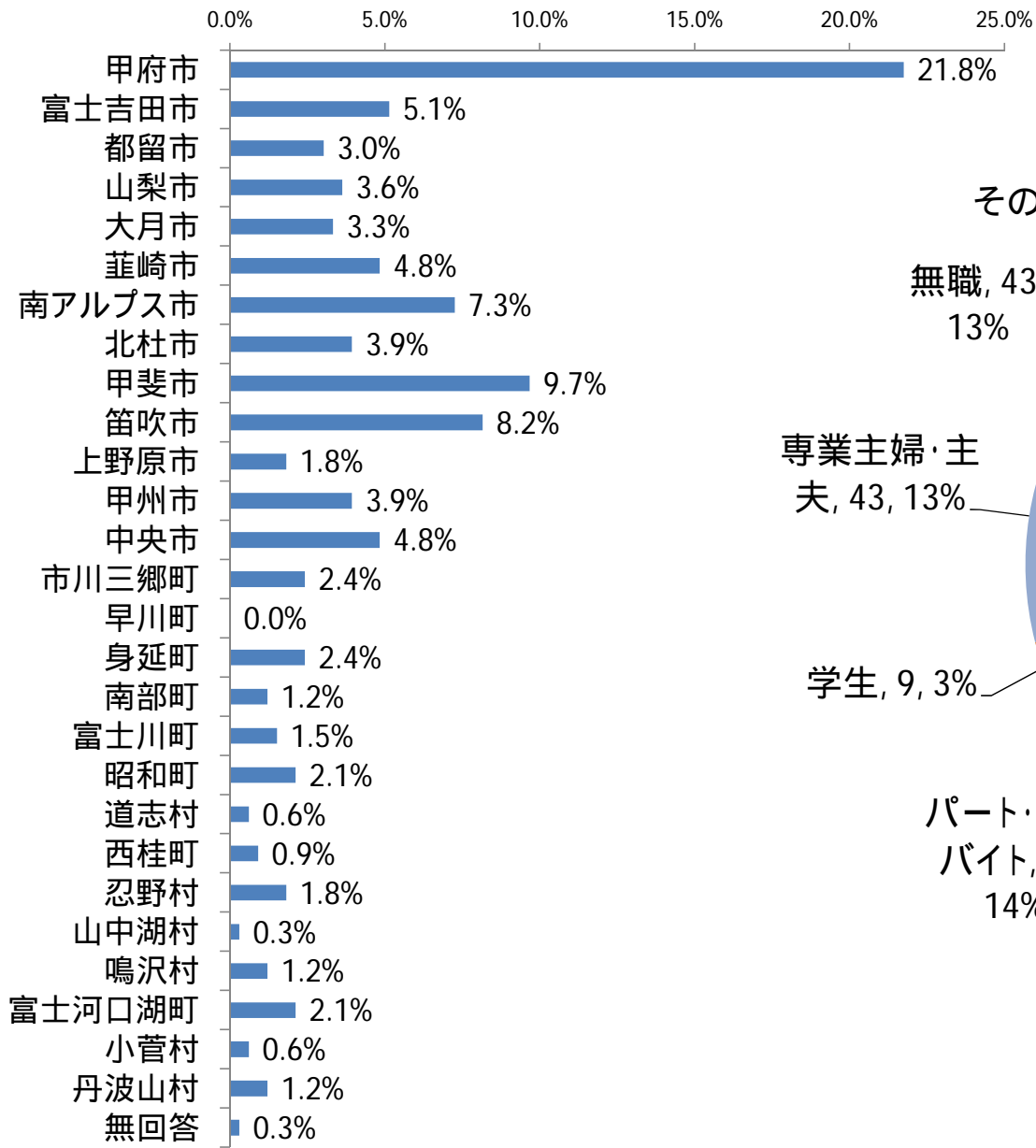


年齢



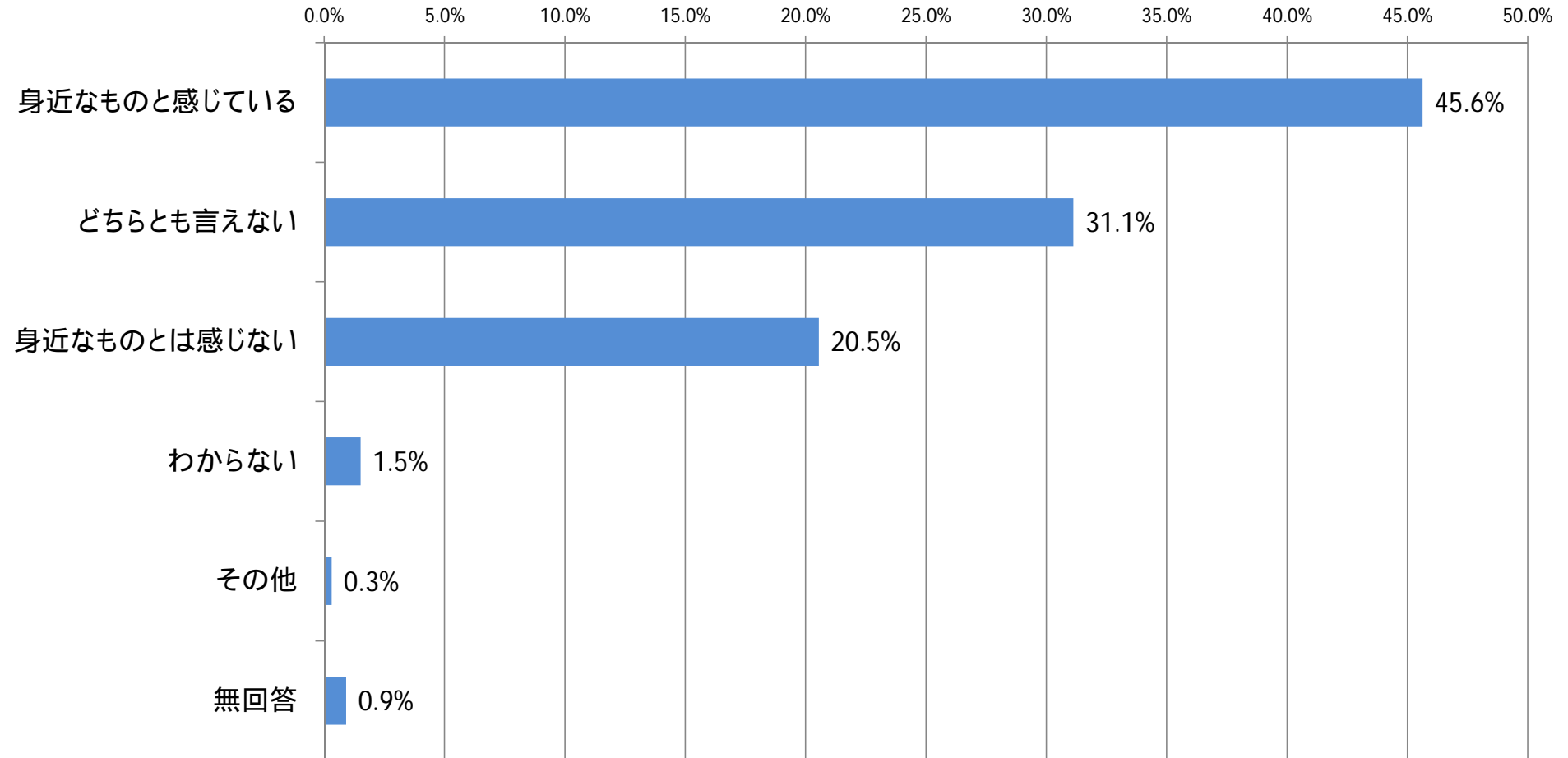
居住地

職業



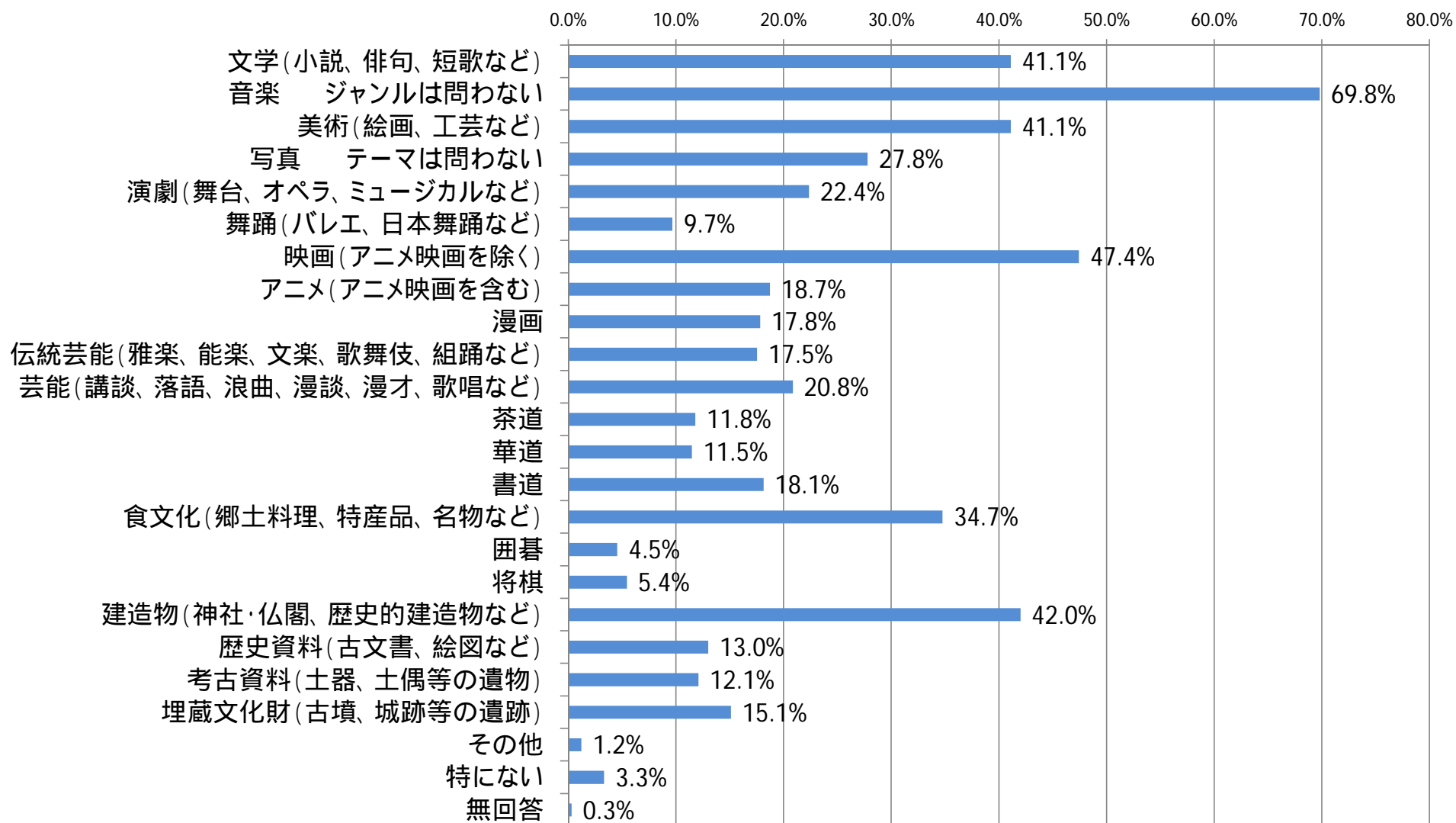
アンケート結果

問1 文化芸術という言葉を身近なものと感じるか



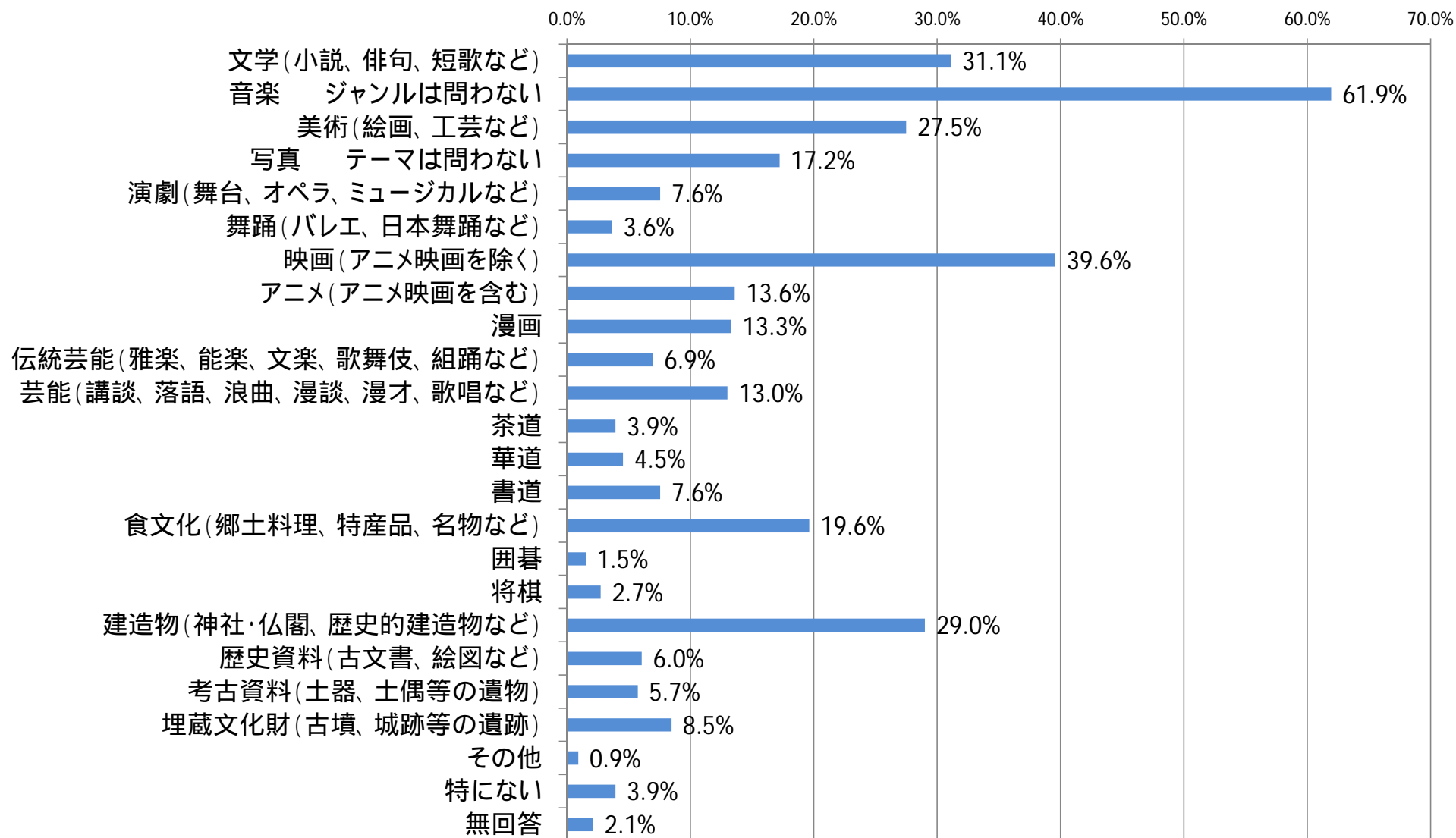
- ・ 文化芸術を身近に感じている者が4割を超えており、多くの県民が文化芸術を身近に感じている。
- ・ 一方で、「どちらとも言えない」、「身近なものとは感じない」と回答した者の割合は5割を超えている。

問2 文化芸術で、身近に感じるものはどれか(複数回答)



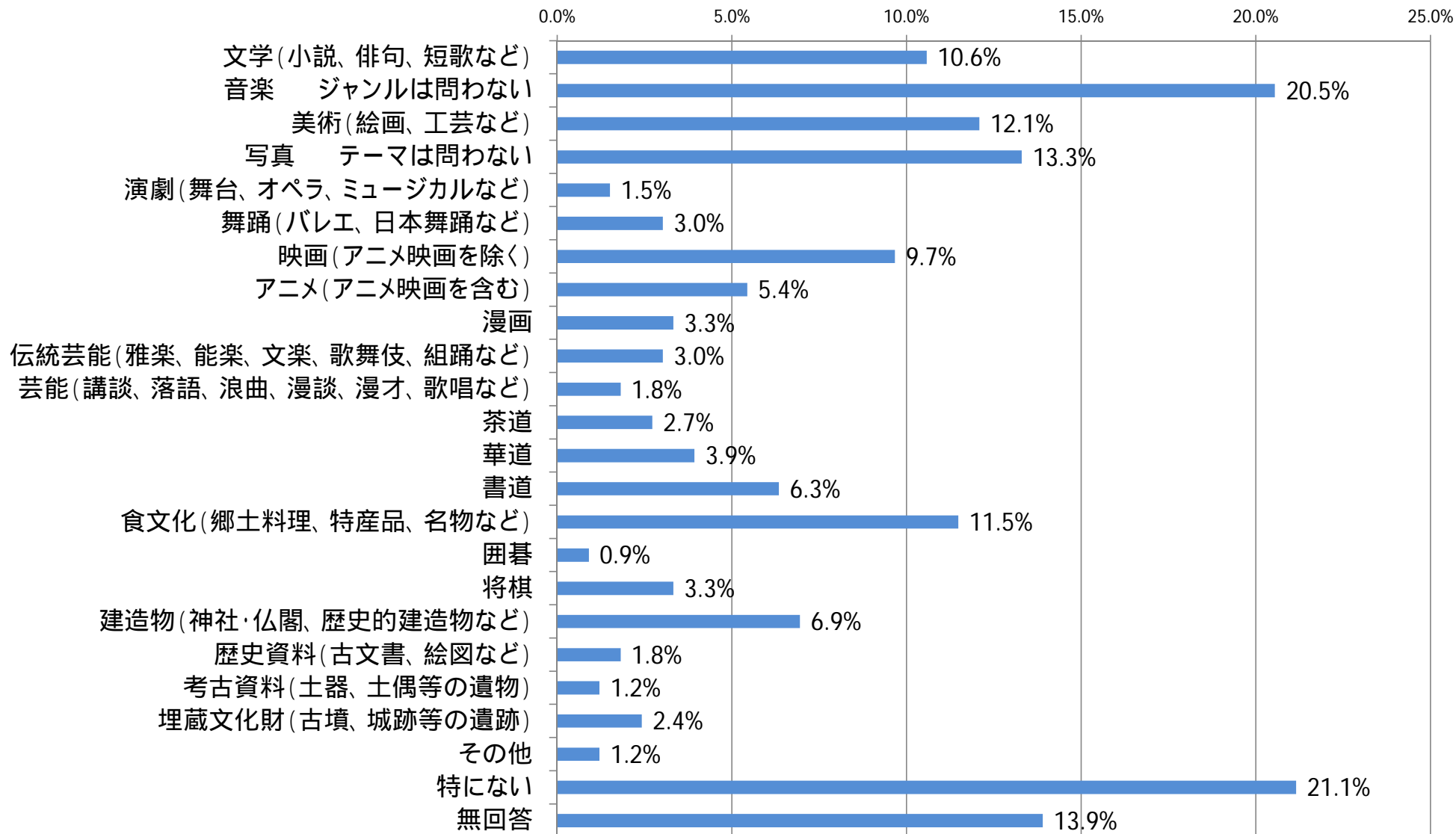
- ・ 文化芸術を身近に感じてる分野については、「音楽」を選択した者が69.8%と最も多く、次いで「映画(アニメ映画を除く)」が47.4%、「建造物(神社・仏閣、歴史的建造物など)」が42.0%と続いている。
- ・ 最も低かったのは、「囲碁」が4.5%で、次いで「将棋」が5.4%、「舞踊(バレエ、日本舞踊など)」が9.7%と続いている。
- ・ なお、3.3%の者が「特にない」と回答している。

問3-1 文化芸術に関してよく鑑賞する分野(複数回答)



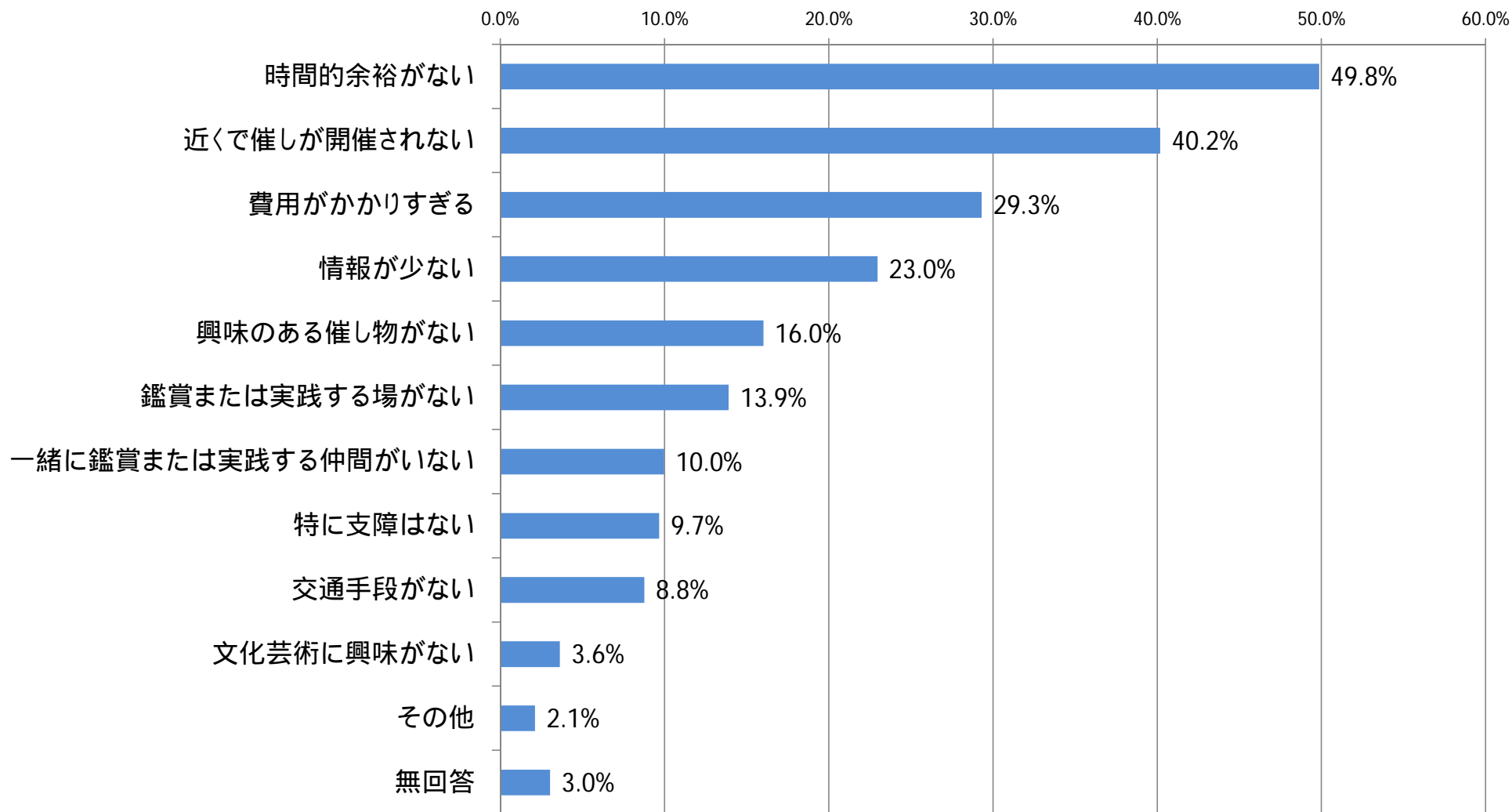
- よく鑑賞する分野については、「音楽」を選択した者が61.9%と最も多く、次いで「映画(アニメ映画を除く)」が39.6%、「文学」が31.1%と続いている。
- 最も低かったのは、「囲碁」が1.5%で、次いで「将棋」が2.7%、「舞踊(バレエ、日本舞踊など)」が3.6%と続いている。
- よく鑑賞している分野と身近に感じる分野は、ほぼ同一であることがわかる。

問3-2 文化芸術に関して実践している分野(複数回答)



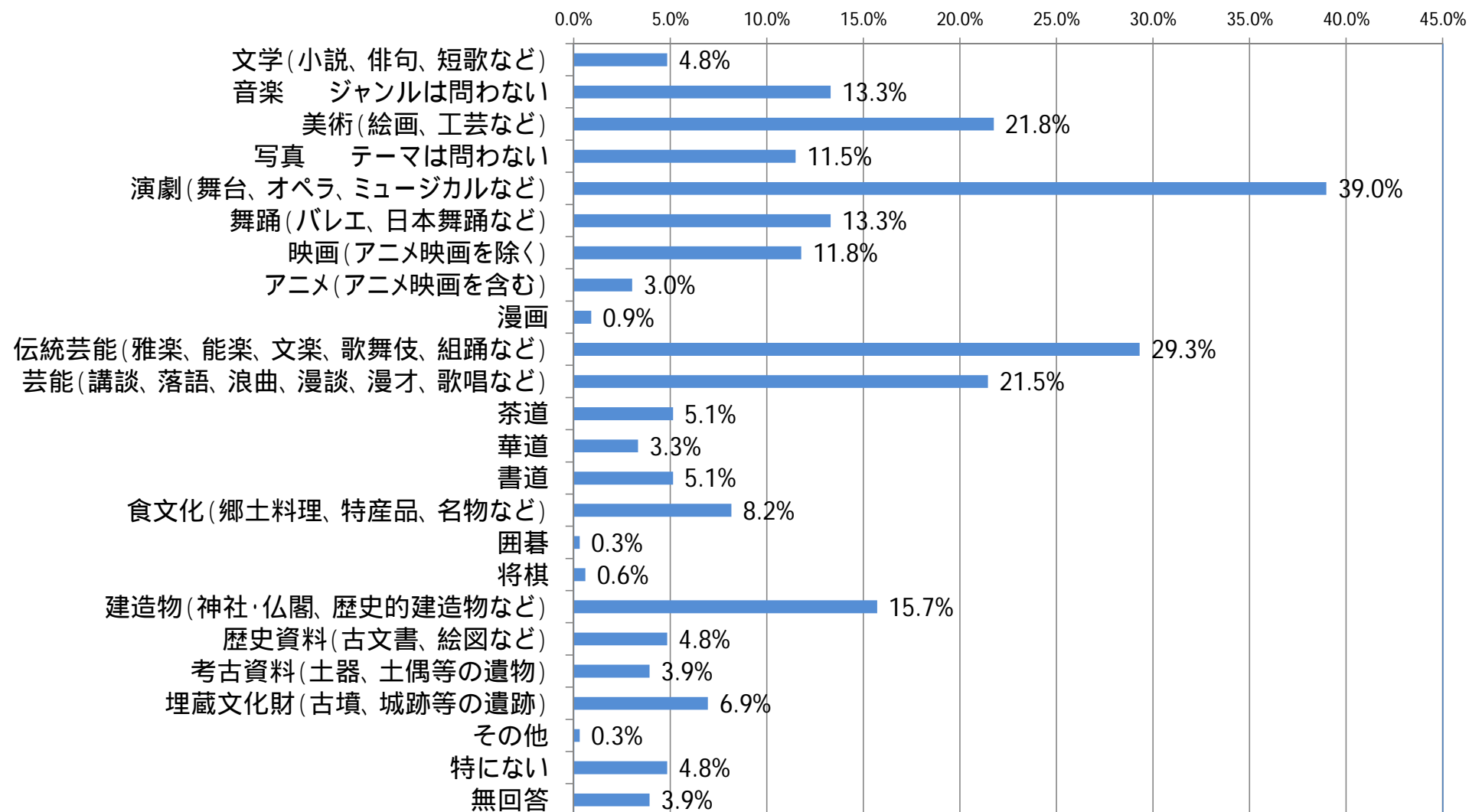
- ・ 文化芸術に関して実践している分野については、「音楽」を選択した者が20.5%と最も多く、次いで、「写真」が13.3%、「美術」が12.1%と続いている。
- ・ なお、最も多かったのは、「特にない」の21.1%で、鑑賞はするが実際に演じたり描いたりなど、実践はしていない者も多いと考えられる。

問4 文化芸術を鑑賞または実践する上で支障となることは何か（複数回答）



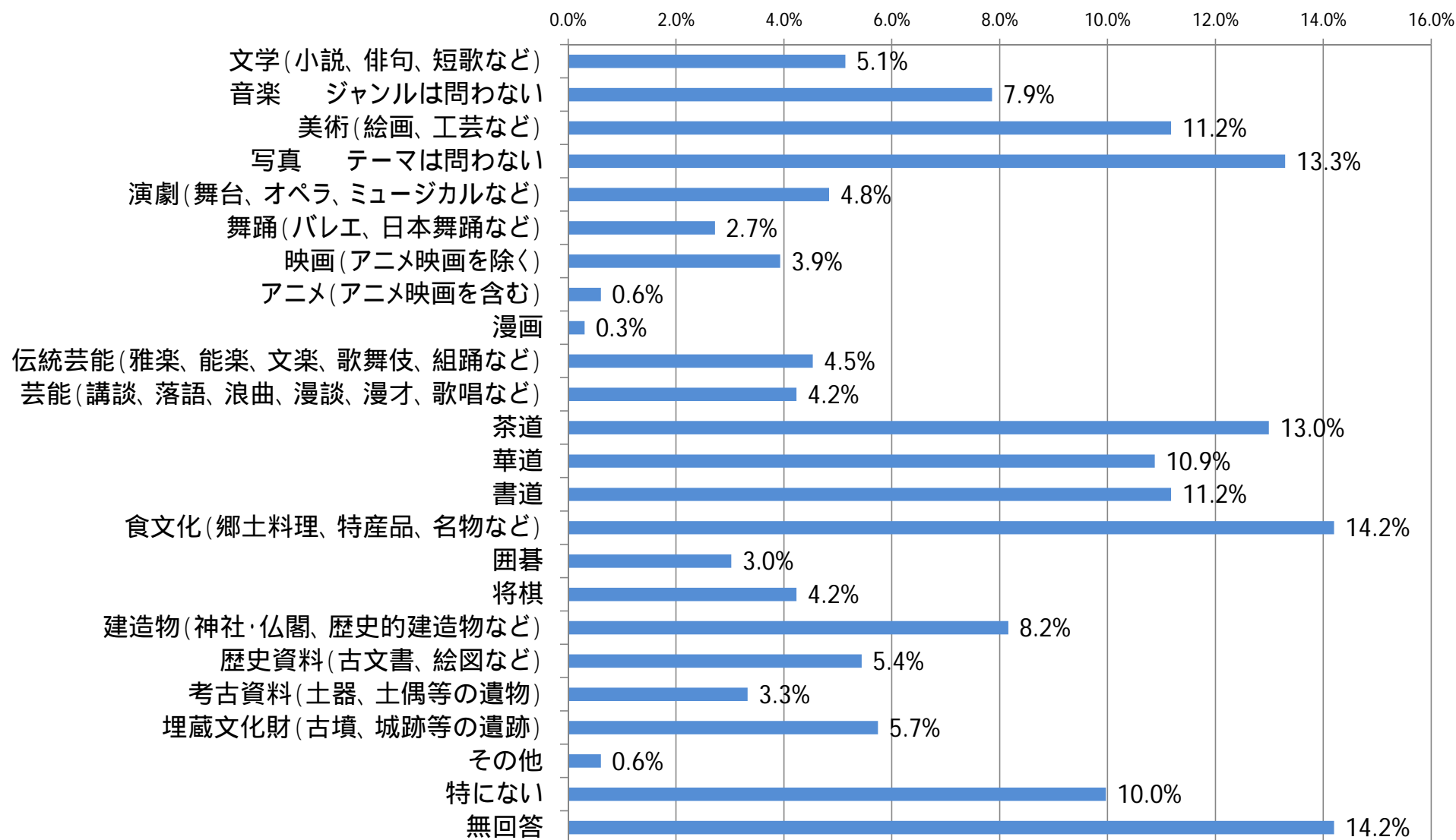
- ・ 文化芸術を鑑賞または実践する上で支障になることについては、「時間的余裕がない」を選択した者が49.8と最も多く、約半数が回答しており、次いで、「近くで催しが開催されない」が40.2%、「費用がかかりすぎる」が29.3%と続いている。
- ・ なお、「文化芸術に興味がない」と3.6%の者が選択している。

問5-1 機会があれば鑑賞してみたい分野(複数回答)



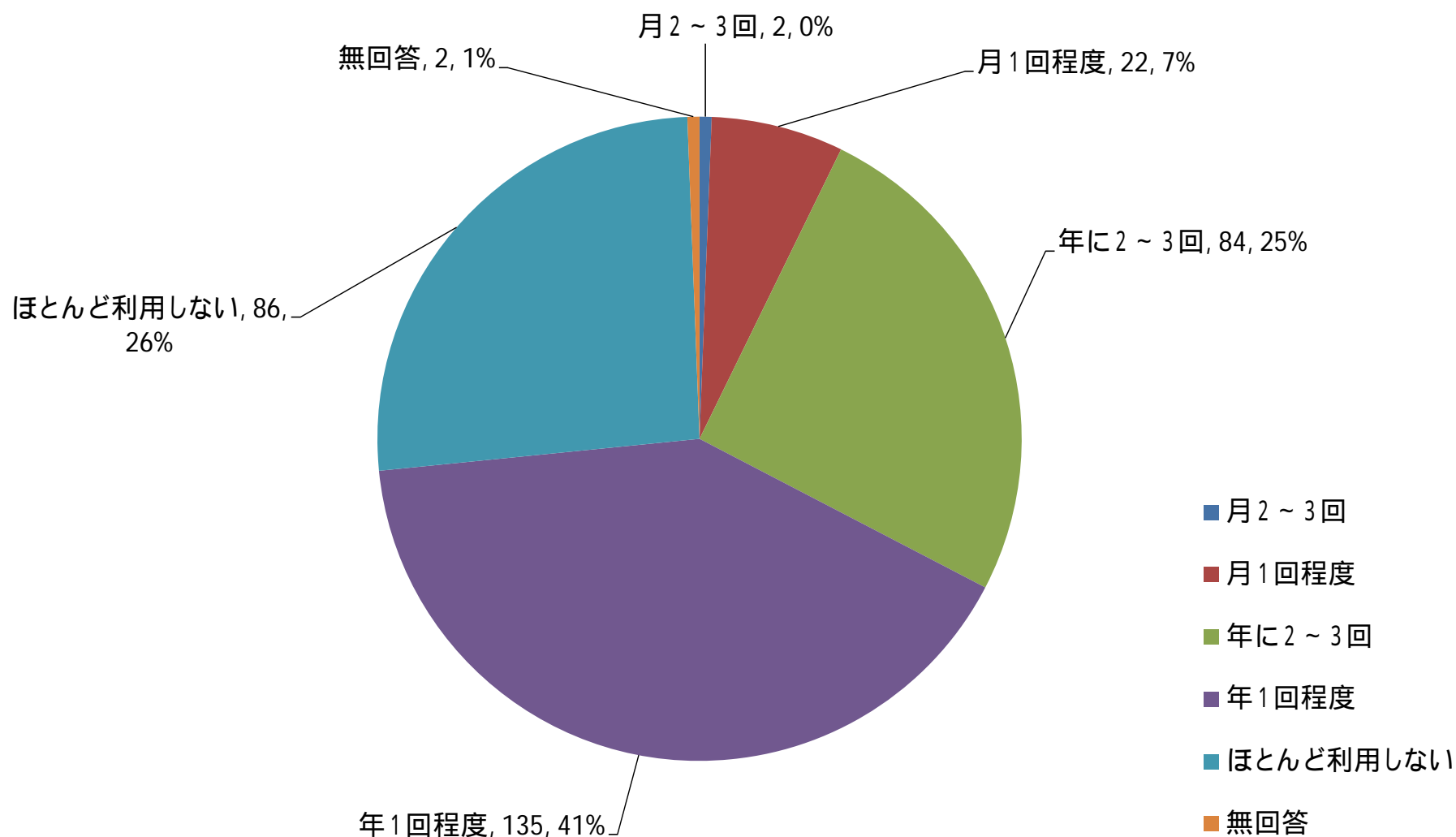
- ・ 機会があれば鑑賞してみたい分野については、「演劇」を選択した者が39.0%で最も多く、次いで、「伝統芸能」が29.3%、「美術」が21.8%と続いている。
- ・ 問3-1のよく鑑賞する分野とは異なっている。

問5-2 機会があれば実践してみたい分野(複数回答)



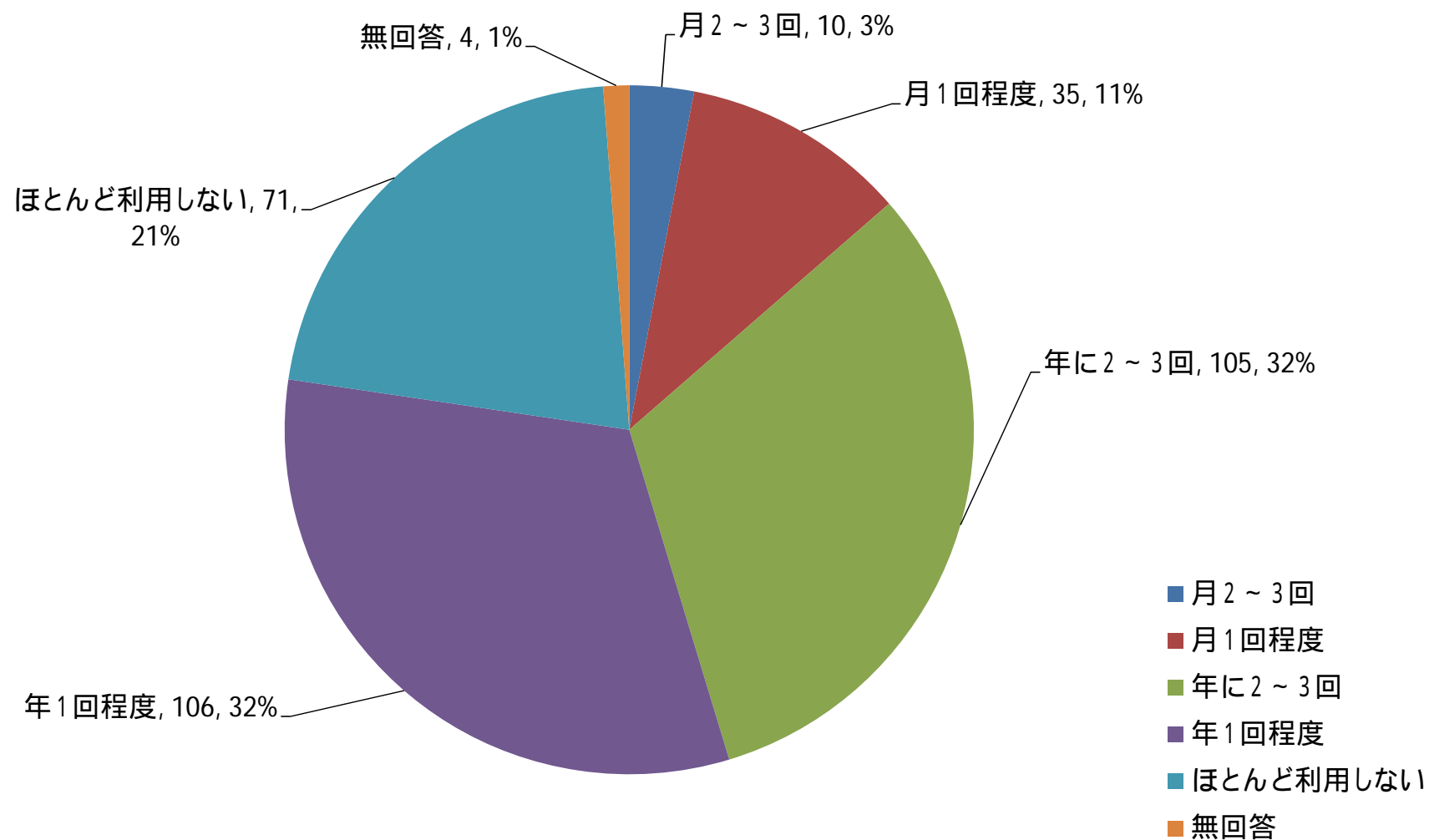
- ・ 機会があれば実践してみた分野については、「食文化」を選択した者が14.2%と最も多く、次いで、「写真」が13.3%、「茶道」が13.0%と続いている。
- ・ 問3-2の実際に実践している分野とは異なっている。

問6 県外の文化施設をどのくらい利用しているか



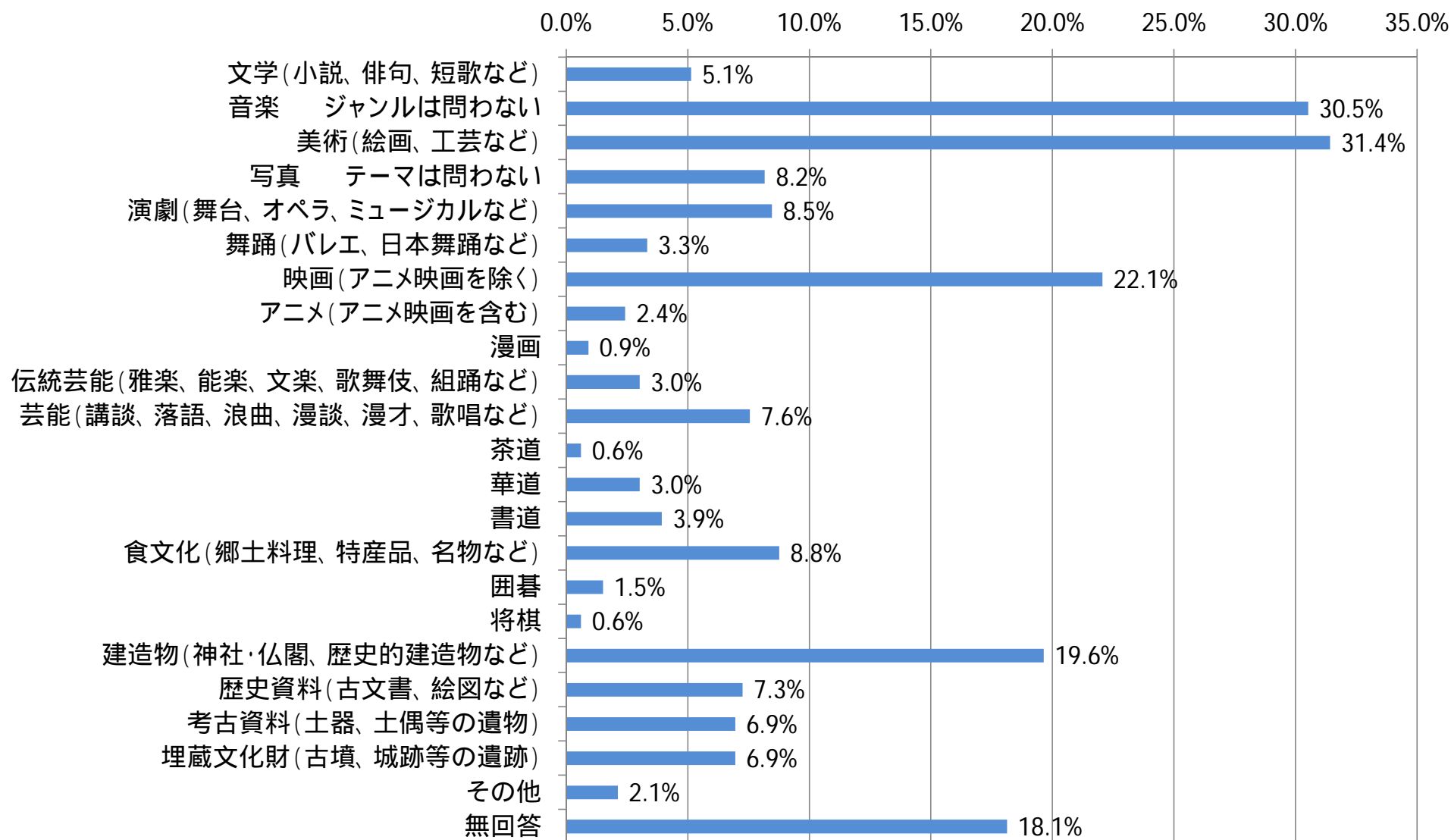
- ・ 県外の文化施設の利用頻度については、「年1回程度」と回答した者が40.8%と最も多く、次いで「ほとんど利用しない」が26.0%、「年に2～3回」が25.4%と続いている。
- ・ 「ほとんど利用しない」と回答した者は2割を超えている。

問7 県内の文化施設をどのくらい利用しているか



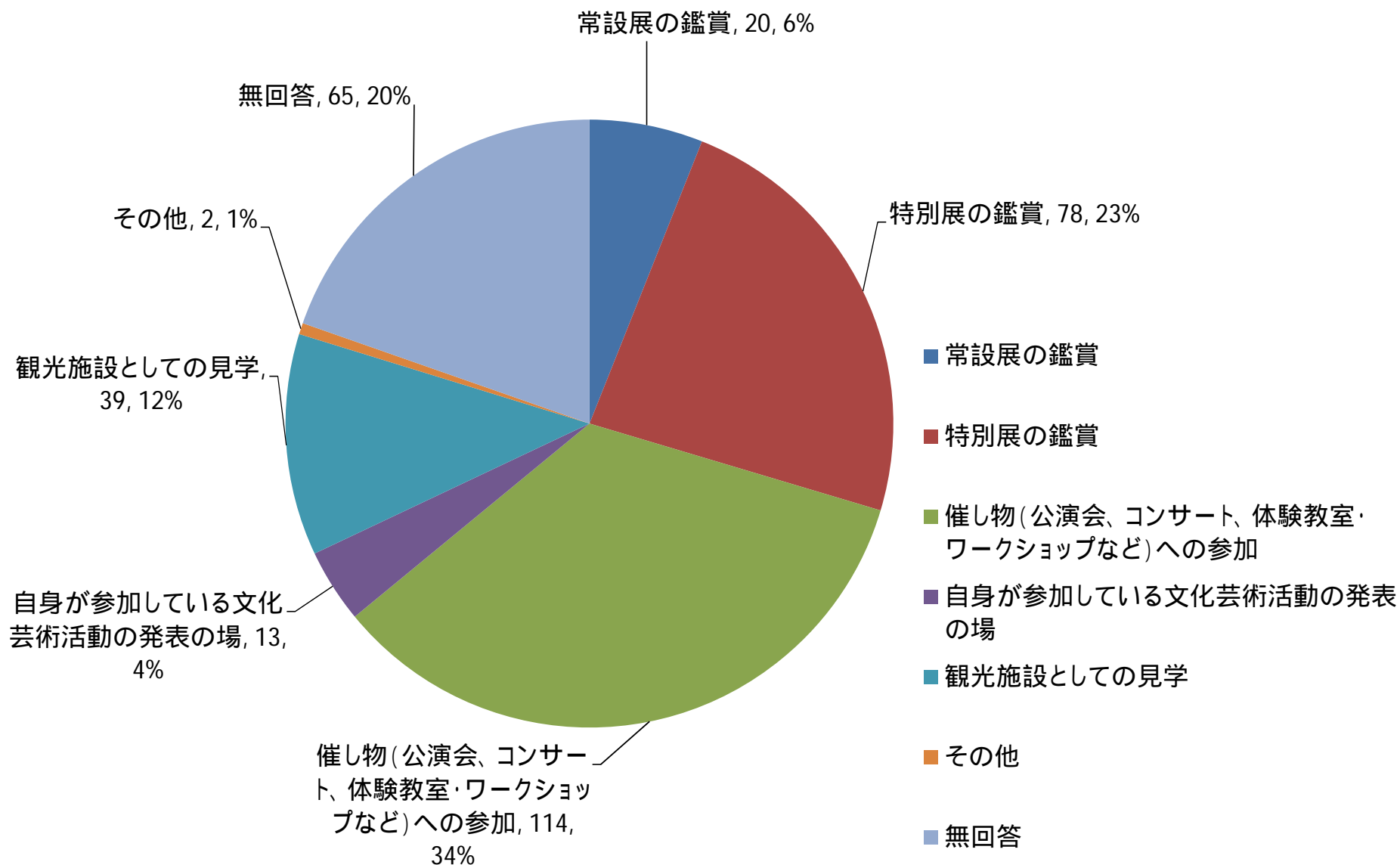
- ・ 県内の文化施設の利用頻度については、「年1回程度」と回答した者が32.0%と最も多く、次いで「年に2～3回」が31.7%、「ほとんど利用しない」が21.5%と続いている。
- ・ 「ほとんど利用しない」と回答した者は2割を超えている。

問8 文化施設を利用する際の文化芸術の分野(複数回答)



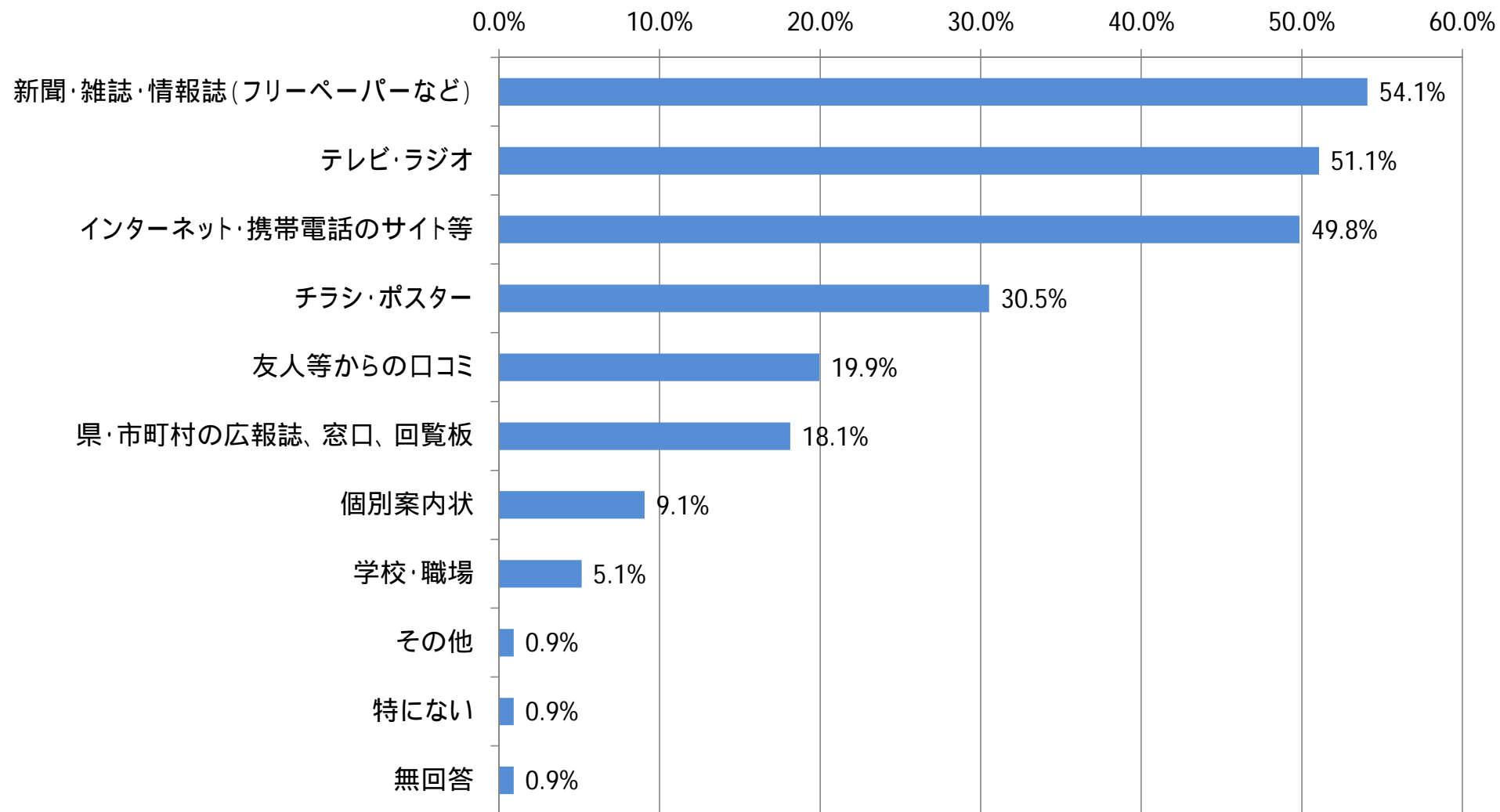
- ・ 文化施設を利用する際の文化芸術の分野については、「美術」を選択した者が31.4%と最も多く、次いで「音楽」が30.5%、「映画」が22.1%と続いている。
- ・ 最も低かったのは、「茶道」と「将棋」が0.6%で、次いで「漫画」が0.9%、「囲碁」が1.5%と続いている。

問9 文化施設を利用する主な目的・理由



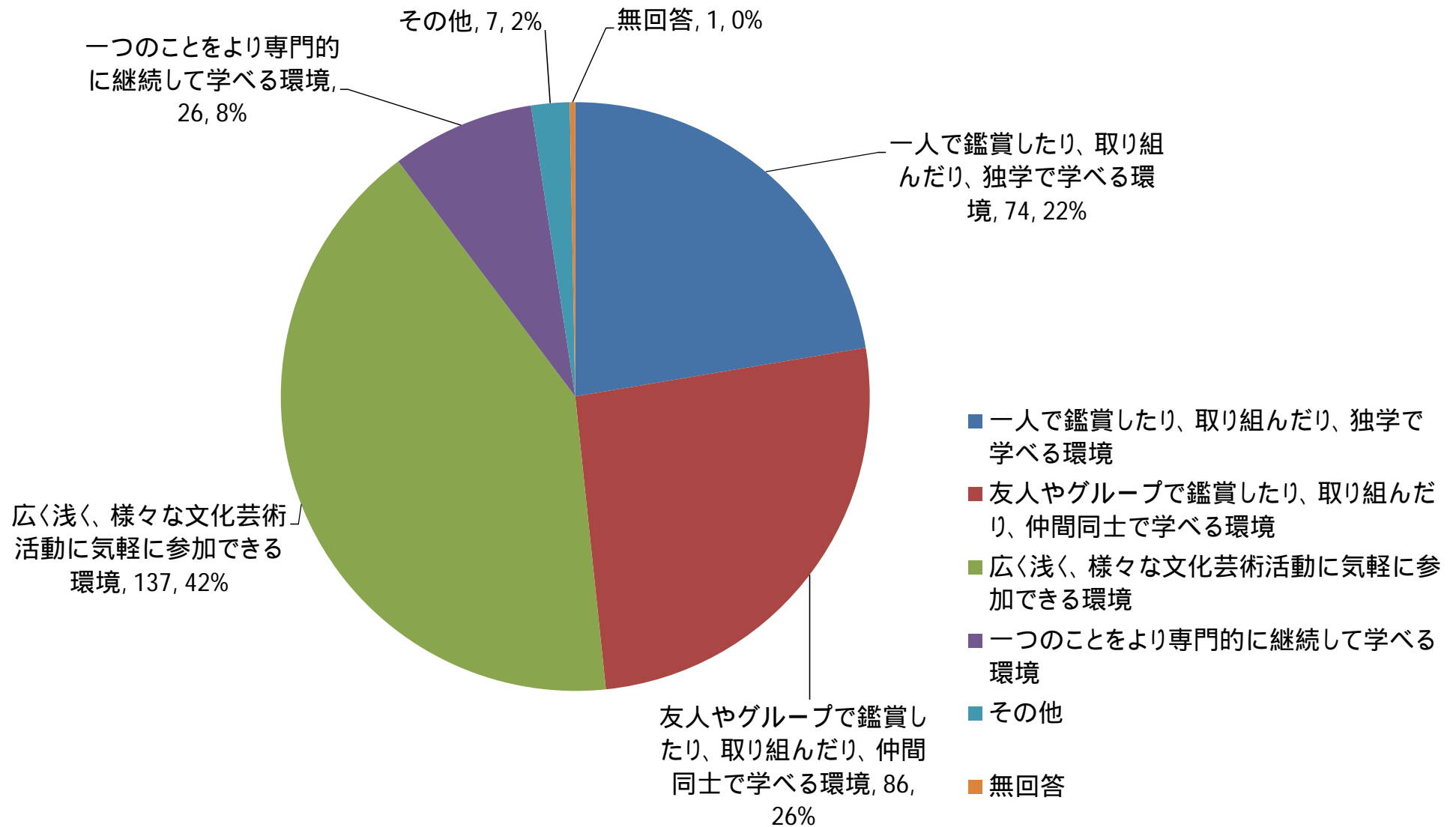
・ 文化施設を利用する主な目的・理由については、「催し物(公演会、コンサート等)」と回答した者が34.4%と最も多く、次いで「特別展の鑑賞」が23.6%、「観光施設としての見学」が11.8%と続いている。

問10 文化芸術の鑑賞または実践に関する情報をどのように入手しているか(3つまで)



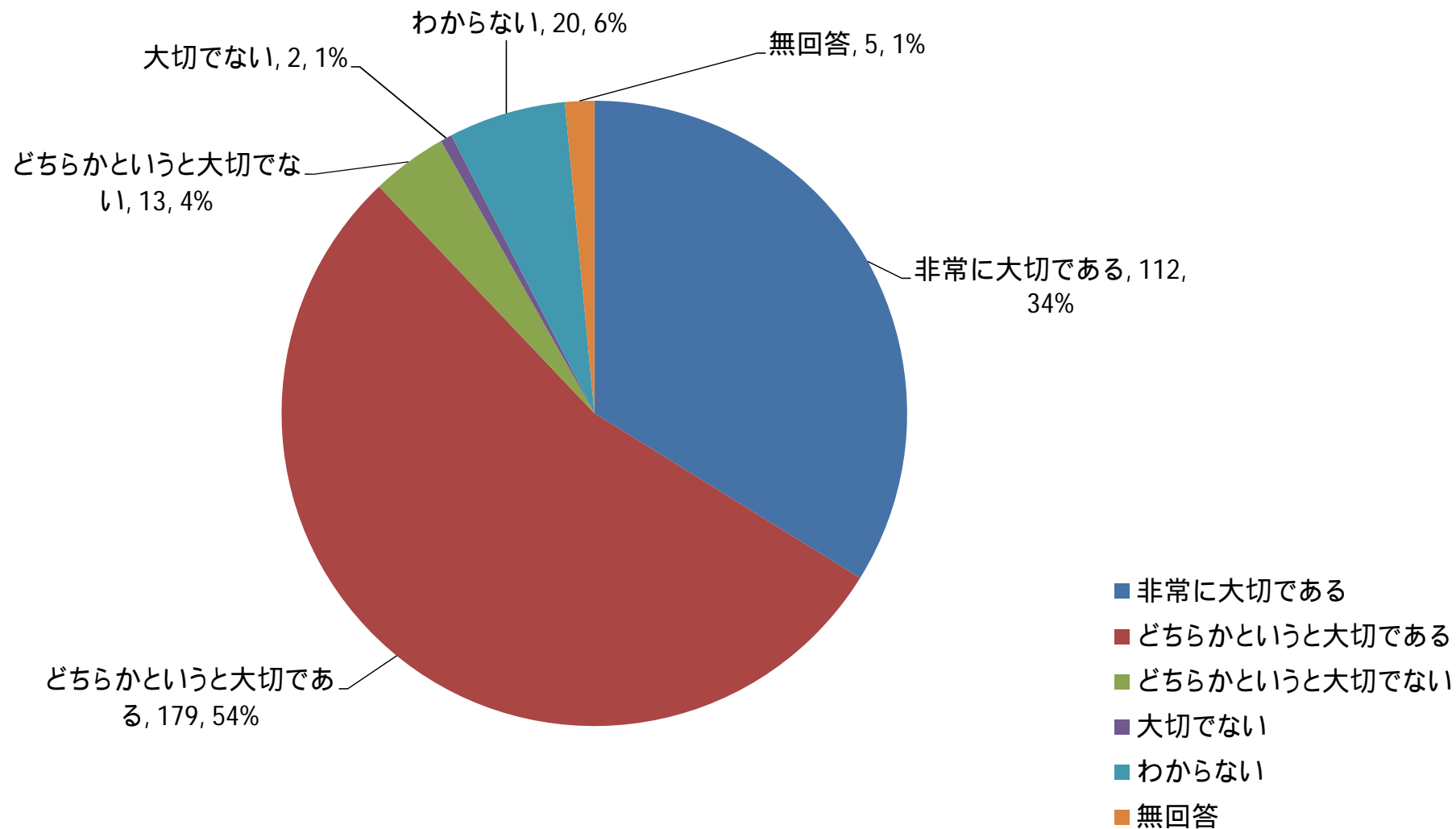
- ・ 文化芸術の鑑賞または実践に関する情報の入手については、「新聞・雑誌・情報誌」を選択した者が54.1%と最も多く、次いで「テレビ・ラジオ」が51.1%、「インターネット・携帯電話のサイト等」が49.8%と続いている。
- ・ 最も低かったのは、「学校・職場」が5.1%で、次いで「個別案内状」が9.1%と続いている。

問11 文化芸術を鑑賞または実践する場合、どのような環境を望むか



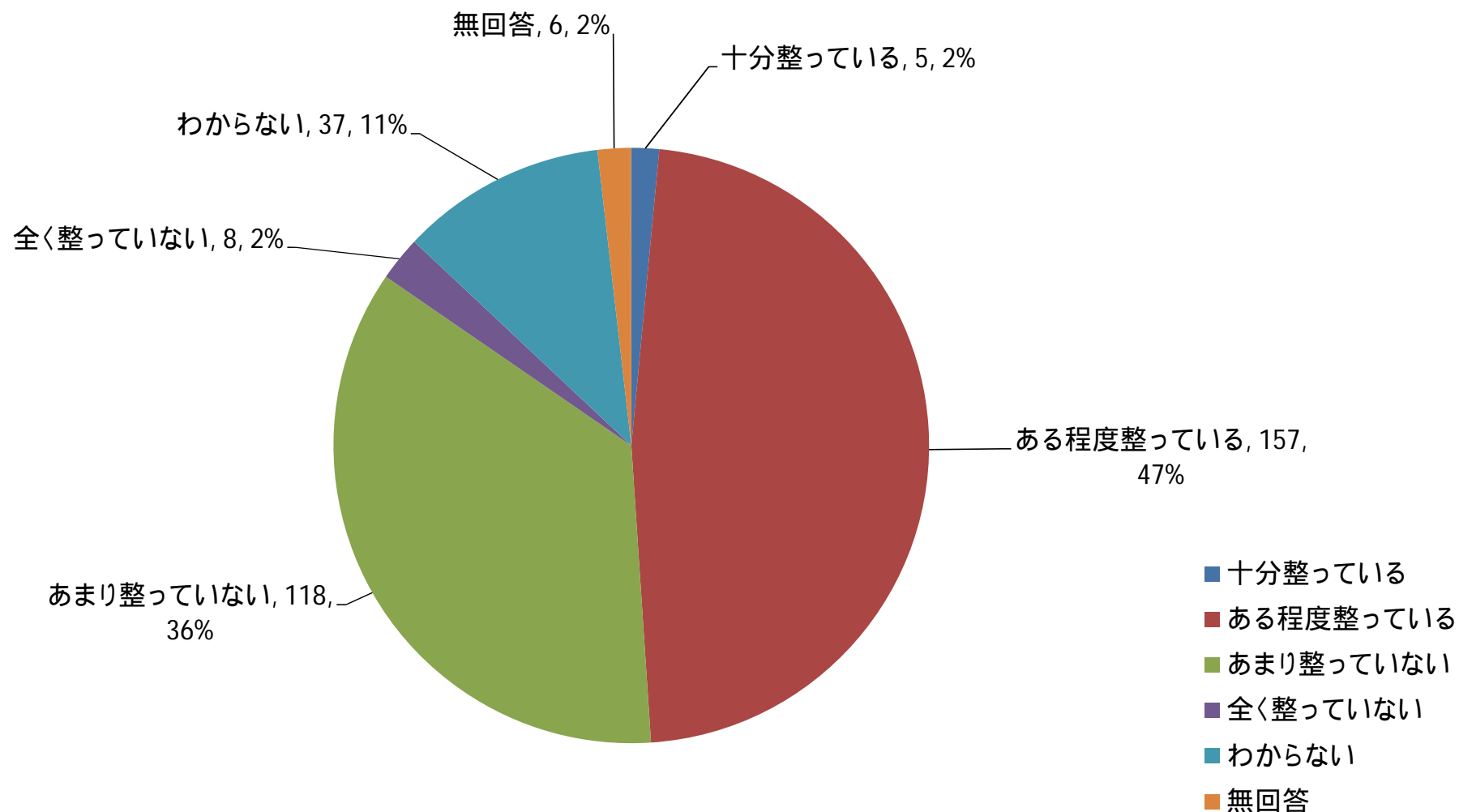
- ・ 文化芸術を鑑賞または実践する場合、どのような環境を望むかについては、「気軽に参加できる環境」と回答した者が41.4%と最も多く、次いで「仲間同士で学べる環境」が26.0%、「独学で学べる環境」が22.4%と続いている。
- ・ 「専門的に継続して学べる環境」は7.9%と低く、仲間あるいは一人で気軽に学ぶことができる環境が望まれている。
- ・ なお、「その他」では、子どもも一緒に参加できる環境を望む回答が複数あった。

問12 日常生活において文化芸術に触れたり、活動を行ったりすることは大切か



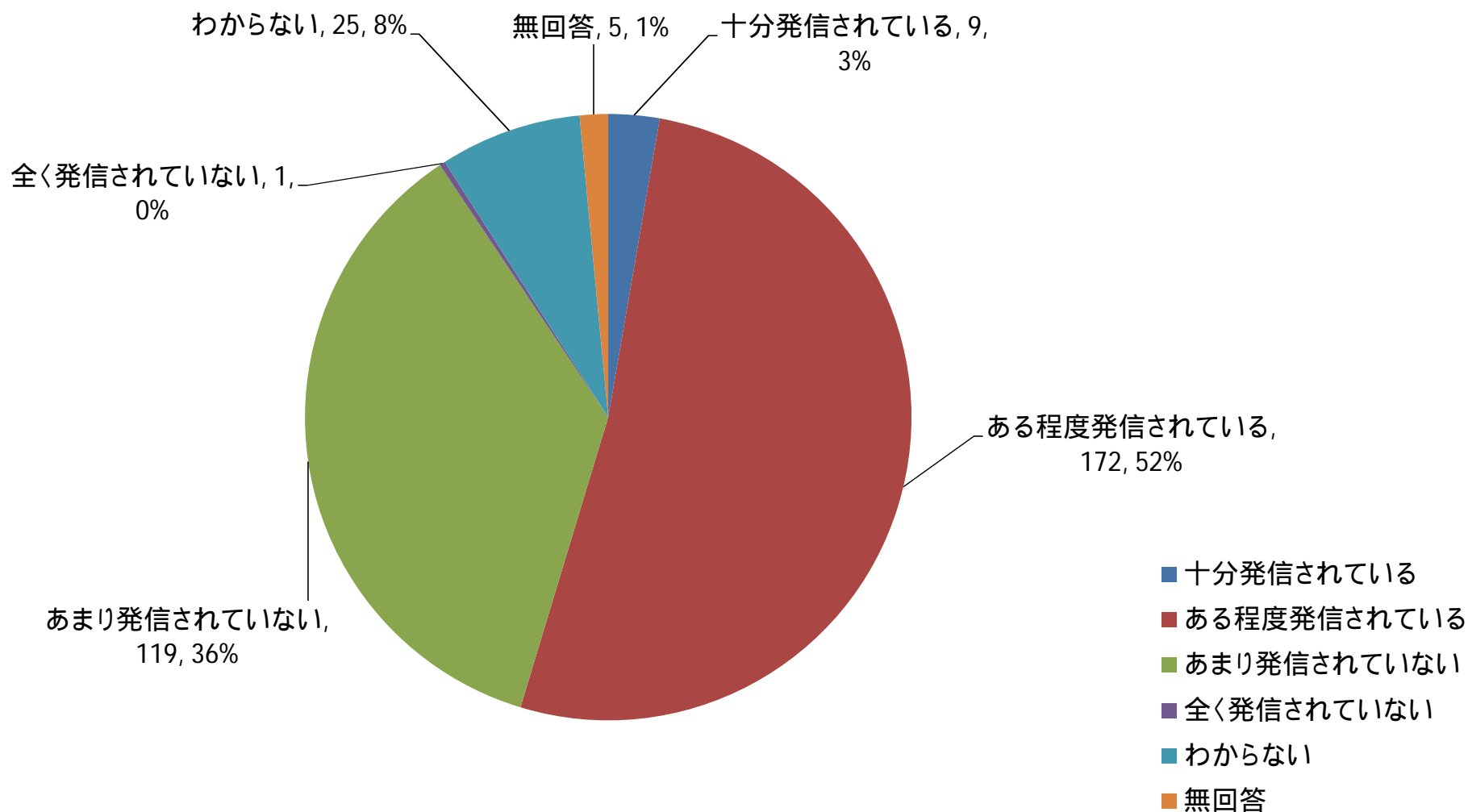
・ 日常生活で文化芸術に触れたり、活動を行ったりすることについて、「非常に大切」「どちらかという大切な」と回答した者が87.9%と8割を超えている。

問13 文化芸術に親しむための環境が十分整っているか



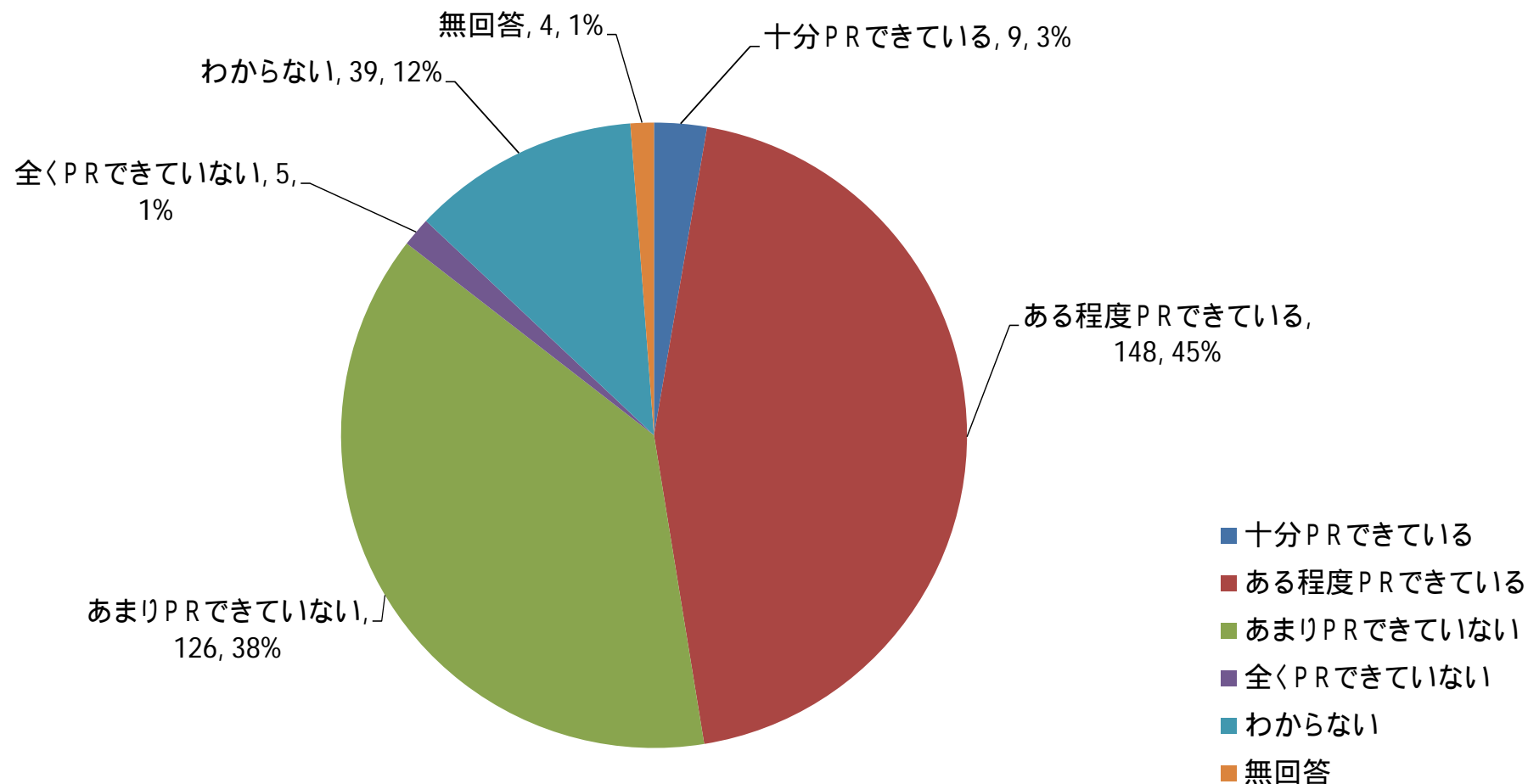
・ 文化芸術に親しむための環境について、「十分整っている」、「ある程度整っている」と回答した者は48.9%と半数に近かったものの、「あまり整っていない」、「全く整っていない」が38.1%と4割近くが回答している。

問14 文化芸術に関する情報が十分発信されているか



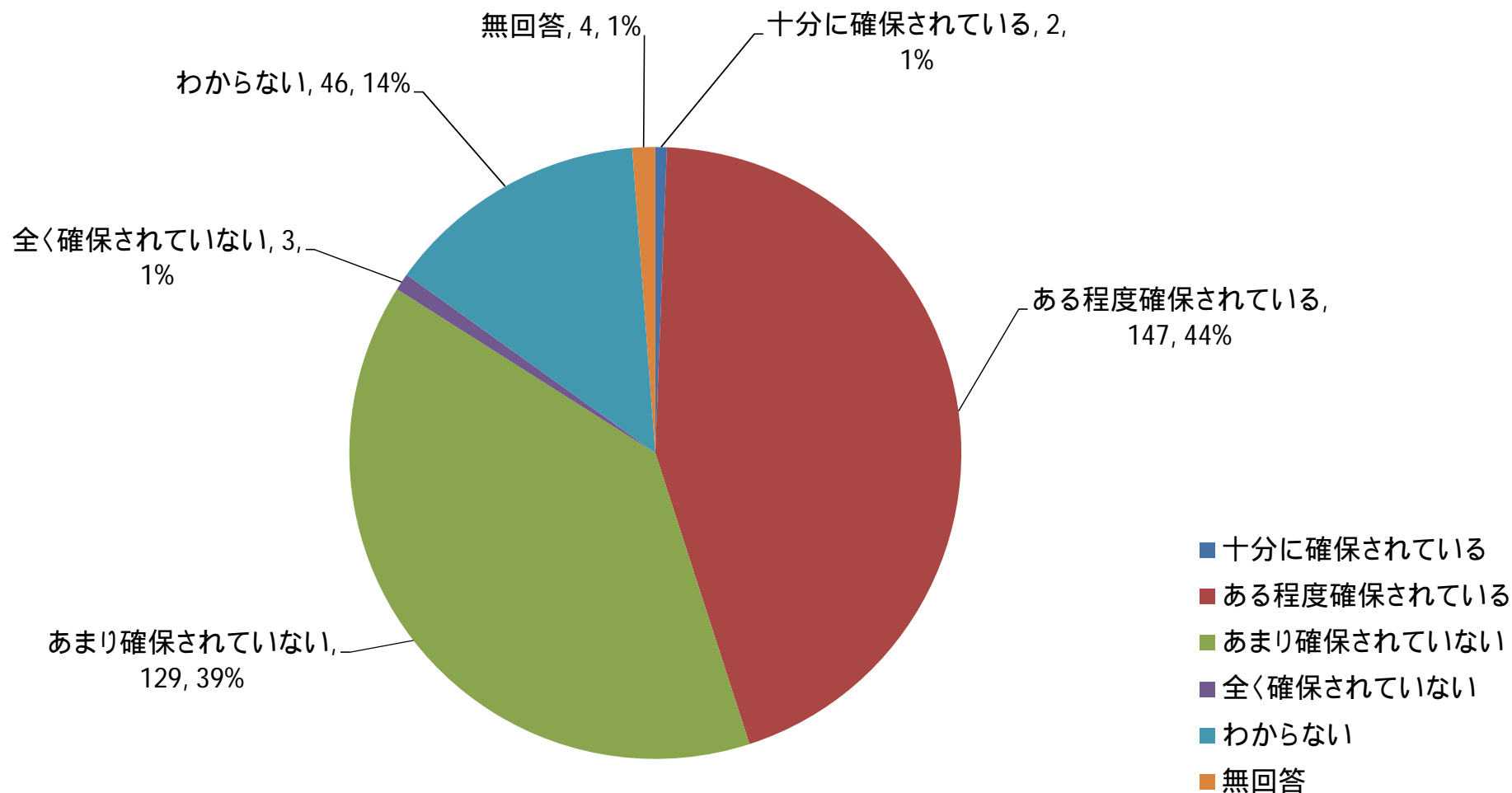
・ 文化芸術に関する情報の発信について、「十分に発信されている」「ある程度発信されている」と回答した者は54.7%と半数を超えているものの、「あまり発信されていない」、「全く発信されていない」が36.3%と4割近くが回答している。

問15 県特有の食文化や伝統工芸、また地域の行事(お祭り)の魅力が県外に十分PRできているか



・ 県特有の食文化や伝統工芸、地域の行事の魅力が県外にPRできているかについて、「十分PRできている」、「ある程度PRできている」と回答した者は47.4%と5割近くいるものの、「あまりPRできていない」、「全くPRできていない」が39.6%と4割近くが回答している。

問16 子どもたちが生活の中で、文化芸術に触れたり、活動を行ったりする機会が十分に確保されているか



・ 子どもたちが生活の中で、文化芸術に触れたり、活動を行ったりする機能が十分に確保されているかについて、「十分確保されている」、「ある程度確保されている」と回答した者は45.0%と5割近くいるものの、「あまり確保されていない」、「全く確保されていない」が39.9%と4割近くが回答している。

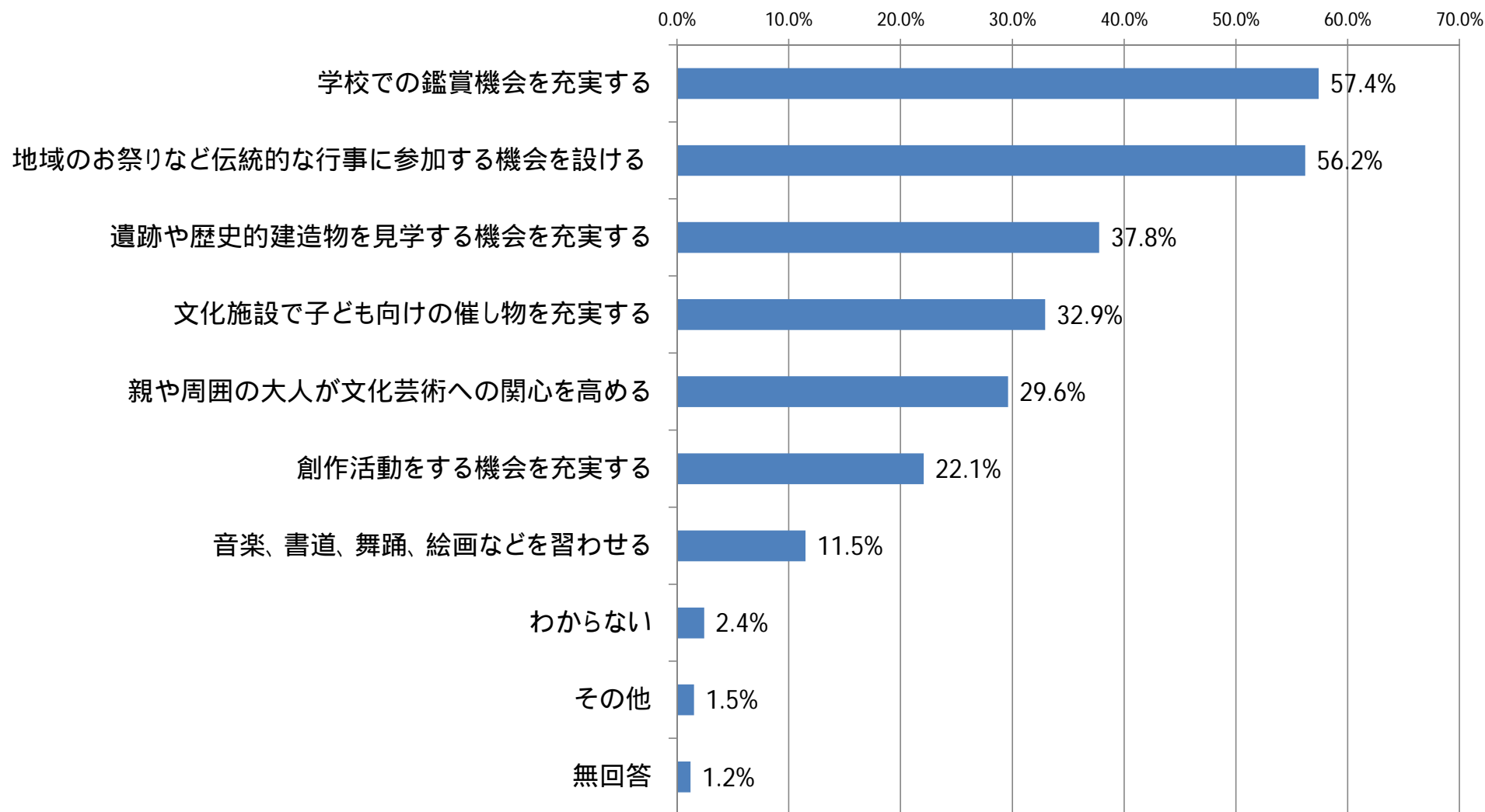
問17 国内外に誇れる山梨県の文化芸術を代表するものとしてイメージするもの(自由記述)
(抜粋)

県立美術館
 ミレーの絵
 武田信玄
 信玄公祭り
 富士山
 富士山(火祭り、富士五湖、文化遺産等)
 富士講
 北口本宮富士浅間神社
 忍野八海
 印伝
 印章技術
 貴金属加工(水晶)
 装飾
 織物
 地域産業
 漫画
 自然

お神楽
 お祭り
 伝統行事
 食文化
 食文化(ほうとう、水、とりもつ等)
 ワイン
 酒
 農産物
 ぶどう、もも
 神社、仏閣
 歴史的建造物が多い
 歴史
 各地域にある古典芸能、お祭り
 清里フィールドバレエ
 和太鼓
 林真理子、田中泯、レミオロメン
 特にない、思い浮かばない、わからない

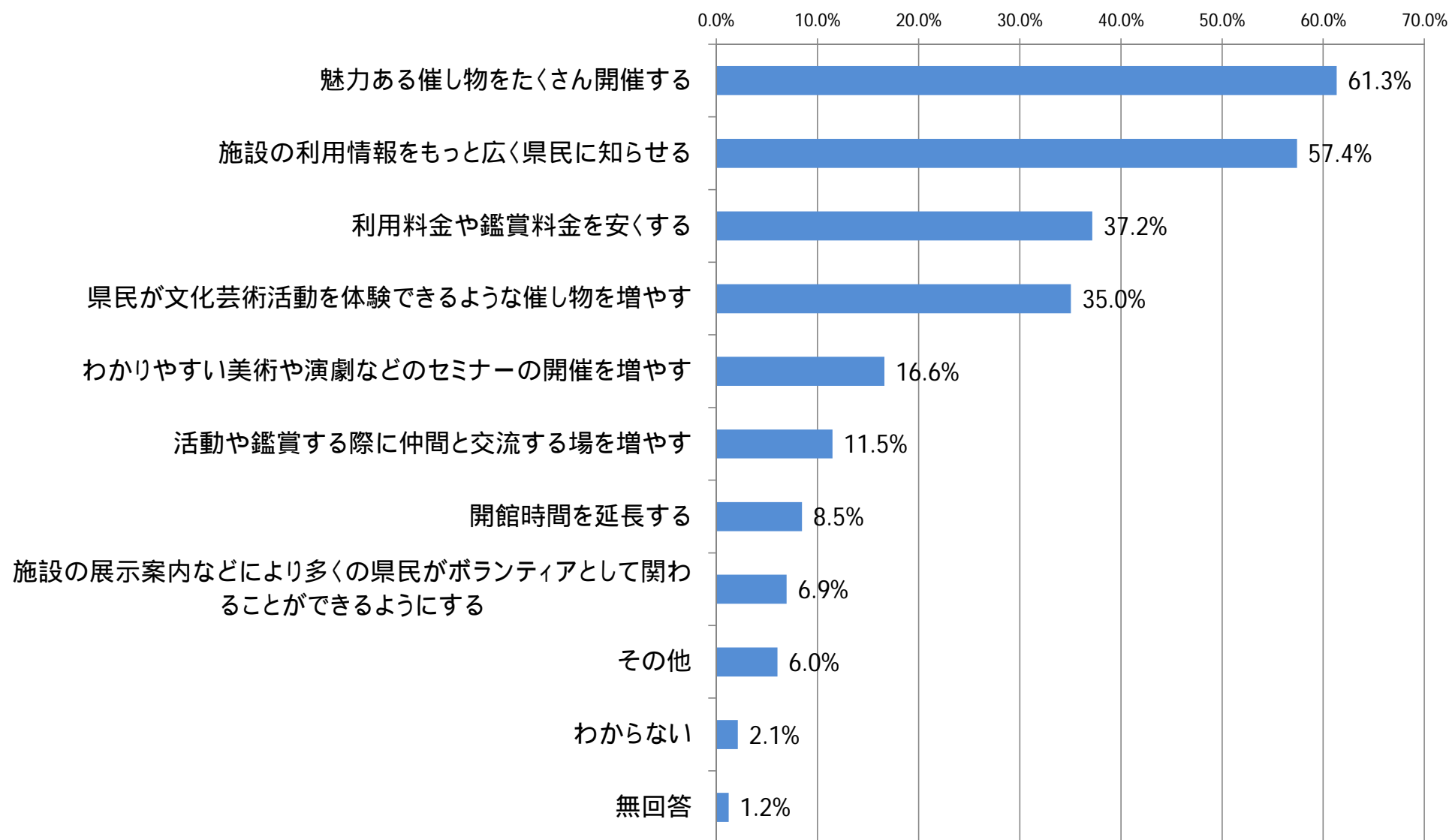
- ・ 国内外に誇れる山梨県の文化芸術を代表するもので最も多かった回答は、県立美術館、ミレーの絵であった。
- ・ 次いで富士山であったが、「特にない」「わからない」「思い浮かばない」「思いつかない」といった回答も複数あった。

問18 子どもたちがこれまで以上に文化芸術に触れたり、活動を行ったりするためにはどのような取り組みが必要か(3つまで)



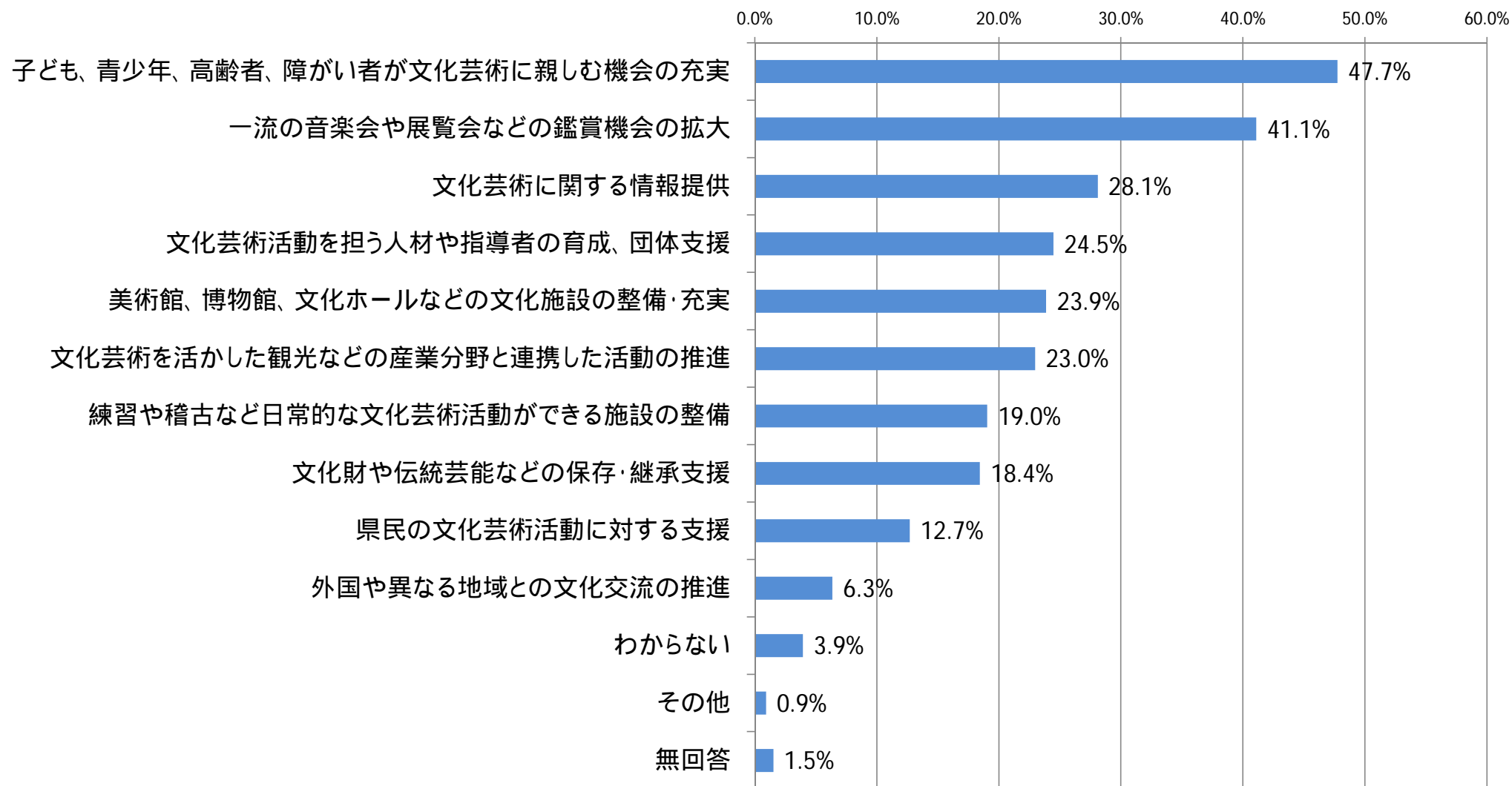
・ 子どもたちがこれまで以上に文化芸術に触れたり活動を行ったりするための取り組みとして最も多かったのが「学校での鑑賞機会を充実する」が57.4%で、次いで「地域のお祭りなど伝統的な行事に参加する機会を設ける」が56.2%、「遺跡や歴史的建造物を見学する機会を充実する」が37.8%と続いている。

問19 県の文化施設を利用しやすくするためにどのような取り組みが必要か(3つまで)



- ・ 県の文化施設を利用しやすくするために必要な取り組みとして最も多かったのが「魅力ある催し物をたくさん開催する」が61.3%で、次いで「施設の利用情報をもっと広く県民に知らせる」が57.4%、「利用料金や鑑賞料金を安くする」が37.2%と続いている。

問20 山梨県の文化芸術を振興させるために、どのようなことが大切か(3つまで)



・ 県の文化芸術を振興させるために大切なこととして最も多かったのが「子ども、青少年、高齢者、障がい者が文化芸術に親しむ機会の充実」が47.7%で、次いで「一流の音楽会や展覧会などの鑑賞機会の拡大」が41.1%、「文化芸術に関する情報提供」が28.1%と続いている。

アンケート結果(自由記述)

問21 山梨県の文化芸術を観光振興や地域活性化に生かすために、どのような取り組みが必要か

(抜粋)

公共の交通機関の運行時間の拡大

文化財までの交通手段等の利便性をはかる。

山梨県は何にしるPRが弱いと感じています。

知らない文化もあるので、どの年代でも興味が持てるように身近に感じてもらえる魅力のある取組が必要だと思います。

山梨県は、他のどの県よりも観光資源に恵まれていると思う。他県の人から見ると観光立国である。でもやり過ぎて、価格が高すぎるという言葉をよく耳にする。手軽に触れることができない文化は、繁栄しないし、守っていきません。皆に愛されるには、知ってもらわなければなりません。

文化芸術に触れる機会を学校や地域で増やして欲しいです。

文化財や伝統芸能など、もっと気軽に鑑賞できたり、体験できる機会を増やしてほしい。

施設整備よりも交通の面(バス等)・利用できるように。県内の里山や食文化・おまつりなど他県にない場所や良さがあるのでもっと生かしてほしいと思います。

だれもが訪れやすい施設の場所、交通手段をととのえるなどの基礎的条件の整備

もう少し山梨のテーマをきめてそれに元づいて地区のつながりをもって活動をしていく。

水とか空気・空・光・緑。具体的に目からとか目とか感じてもらう。

伝統文化の伝承。若手の育成(文化芸術に携る人、作家等)

山梨のオプションツアーみたいにバスやタクシーを使った芸術観光ツアーを企画する。

これまで山梨県の文化芸術について考えたことがなく今回考えてみましたが答えが見つかりませんでした。

問22 山梨県の文化財を保存・活用するためにどのような取り組みが必要か

(抜粋)

子どもたちが県の文化財を広く知るために学校教育の中でも、それらに触れる機会を設定していく。

観光マップを充実化した方が良い。例えば、塩山の裂石の場所が全く分かりにくいし、行った事がある県民は本当に少ないと思う。日本最古の雲峰寺の日の丸なども芸能人がお忍びで来る事もあると聞いているが、観光客は殆どいない。全体的に情報配信が少な過ぎる。

文化財を広く知ってもらうための広報活動を充実させる。

文化財をライトアップやプロジェクションマッピングを使うなど、新旧の融合。

子供の時から文化財の大切さを知ることによって、伝承者、案内者を育成していくこと。

文化財の標識を大きくするとともに道路に経路の案内板を設置したりする。

地元の伝統芸能を他所の視点から評価されることにより、地元の方の意識改革(「この伝統を大事にしよう。」という意識)につながると思う。埋もれつつある伝統芸能の時代背景やどんなところが良いのか具体的に、且つ、積極的に紹介する。また、その反響を地元の方にフィードバックすることで、存続の意義などを再認識できるのではないか。

山梨に移住して感ずることは、各地域とも地域に残る文化財保全意識が極めて低い。

移住者の意見は届かず残念です。

文化財を案内するマップの作成。内容がわかる資料の整備。伝承者の育成。

アプリの開発:位置情報から、ここから近い文化財が地図上ですぐわかり、写真、行き方など多言語で表示可能。レビューも掲載して、「せっかく来たから観てみよう」という気持ちになっていただく。

そもそも県内の人達の中で文化財の存在を明確にわかっている人がどのくらいいるのだろうか？
まず県内へのアピールを標識やメディアへの宣伝を通じて行なってほしい。

問23 山梨県の文化芸術と産業が連携し、ともに発展していくためにどのような取り組みが必要か

(抜粋)

若者中心の文化振興に転換する。

文化芸術と伝統工芸が体験できる観光コースを設定し、紹介する。

これからの山梨を支えて行く若い方の意見やアイデアを尊重し、取り上げて行く。

既成の概念を良い方向に向けることも良いかと思います。

伝統工芸品と何らかのコラボレーション製品の開発等、若者や外国人にも受け入れやすいものを考案し、発信する事も必要かと思います。

美術館・文学館など特別展の入場料をもう少し安くしてほしい。(山梨県民だけでも)

今すぐにとはいかず時間のかかることですが、子供たちに良き郷土愛を醸成させる努力をしていくことですね。

伝統工芸など受け継ぐ人が受け継いで行ける経済基盤を整える。地場産業などについては地産地消を進めて地域で支援していく態勢を整える。

文化芸術と伝統工芸が体験できる観光コースを設定し国内外に紹介する。

山梨大学にワイン学科が出来たように、他の県内大学にも専門コース的なものを新設したり、産学共同で新商品を開発していく。

観光コースを設定し、国内外に紹介する事も重要だと思いますが県民も身障者も気軽に参加できる商品も必要だと思う。

今の時代には、SNSなどを活用した情報発信が最も有効な手段だと思います。ただし、商業主義が勝り、利害関係が絡むと、文化芸術は荒廃すると考えているので、産業と文化芸術は相容れないと思っています。

伝統工芸や地場産業に従事している方が高齢化している為に若者が引き継ぐ様な対策を取りたい。

問24 山梨県の文化芸術の推進をこれまで以上に進めていくために考えていること、意見・要望等

(抜粋)

子どもの頃から文化芸術に触れていくことが大切。年に一度程度学校において芸術鑑賞教室が実施されるが、地域でももっと子どもたちが文化芸術に触れる機会を増やしてほしい。

そのためには、料金も低くしてほしい。

県外の観光地の推進内容をもっと手本にした方が良い。お客様が来ても、接待で連れて行きやすい環境が無いし、行きたいとも言われないのは知名度不足なだけ。文化芸術のハードもソフトも十分に現状あると思う。

甲府市でのイベントが多いので、もっと身近に参加出来るように地元でのイベント等を開催すればたくさんの人に興味を持ってもらえると思います。

特定の場所にのみ文化や芸術があるのではなく、身近な生活の中になじみ出てくるような取り組みができると良い。街全体が芸術性を持つようなことができないでしょうか。家並み、看板、標識、道路、広告など、もう一度ゼロから見直してみることも必要ではないかと思うのですが。

私自信、文化芸術に興味がないので考えがない。私みたいに興味がない人にいかに興味を持ち、足を運び見たいか、習いたいかわかりませんがPRなど必要です。子供、大人、誰でも参加できどの地域の人でも参加、体験できる体制があるといいと思う。

地産地消型の文化芸術を推進していったらどうか。まず県民が地元で楽しむことが優先と考えます。

県内を数ブロックに別けて伝統工芸あるいは文化・芸術等をロードマップ方式で記載してみたらどうかと思います。

文化芸術という何か特別視してしまっているように思えます。幼い頃から身近なものとしてとらえられるような環境、教育が必要に思えます。